

# 「がん哲学外来」 設立記念シンポ

東久留米で来月9日

「がんとともにどう生きるか」について、患者と家族、医療関係者が気軽に語り合う場を提供するNPO法人「がん哲学外来」の設立を受け、記念シンポジウム「時代は何を求めているか」が、5月9日午前10時から東久留米市役所市民プラザホール（東久留米市本町3の3の1）で開かれる。

「がん哲学」とは、がんや死という問題と向き合い、それぞれの生き方を見つける姿勢を指す。樋野興夫・順

天堂大教授（病理・腫瘍学）が提唱した。が

ん哲学外来は、順天堂大（文京区）で昨年1〜3月に開設され、「普

段、医師に話せないことを気軽に相談できる」と、全国から希望者が殺到した。その後、東久留米市や横浜市、千葉県柏市など各地に開催の輪が広がっている。

NPO法人は、各地の外来の開催を支援したり、外来担当者の研修などを目指し、今年3月に設立された。シンポジウムでは、樋野教授が外来での出会いや学びについて講演するほか、患者や外来の事務局担当者、在宅医療に携わる医師らによる議論が予定されている。

参加無料。問い合わせは、シンポジウム事務局のメール([info@antetsugaku@gmail.com](mailto:info@antetsugaku@gmail.com))<。

【永山悦子】